



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimmu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

立教大学理学部物理学科教員

1. 教授、助教授、または講師 1 名
2. 理論物理学研究室
3. 宇宙物理学の理論的研究
5. 2006 年 4 月 1 日
6. 着任時に博士号取得者で 50 歳程度までの方。大学院教育にも積極的に取り組んでいただける方。
7. (1) 履歴書、(2) 業績リスト、(3) 主要論文別刷 5 編以内、(4) 現在までの研究概要（1,500 字以内）、(5) 研究計画書（1,500 字以内）、(6) 推薦書または照会可能者（2 名）の氏名と連絡先、(7) 希望ポストを明記のこと。
8. 2005 年 9 月 12 日（月）必着
9. (1) 〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
立教大学理学部物理学科長 平山孝人
(2) 同学科 柴崎徳明
Tel: 03-3985-2389
e-mail: shibazak@rikkyo.ac.jp
10. 封筒に「物理学科教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留で送付のこと。応募書類は原則として返却しない。返却希望の場合は宛名書きをした返信用の封筒を同封すること。

愛媛大学理学部物理学科教員

1. 教授 1 名
2. 基礎物理学講座（平成 18 年度から部局化に伴い、大学院理工学研究科数理物質科学専攻基礎物理学講座となります）
3. 宇宙物理学（実験）
4. 共通教育、学部専門教育、大学院教育および研究活動ならびに大学の管理・運営に関わる業務
5. (1) 平成 18 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期
(2) なし（定年 65 歳）
6. 博士号取得者
7. (1) 履歴書、(2) 研究業績リスト、(3) 過去 3 年間の科研費、研究助成金および特許の取得状況、(4) 主要論文別刷（コピー可）5 編、(5) 研究概要（1,000 字程度）、(6) 着任後の研究計画（1,000 字程度）、(7) 教育研究の抱負（1,500 字程度）、(8) 推薦書 2 通あるいは照会可能者 2 名の氏名と連絡先
8. 2005 年 9 月 30 日（金）必着
9. (1) 〒790-8577 松山市文京町 2-5
愛媛大学理学部人事委員会委員長 野倉嗣紀
(2) 同物理学科長 江沢康生
Tel: 089-927-9581,
Fax: 089-927-9580（物理事務室）
e-mail: ezawa@phys.sci.ehime-u.ac.jp
10. 封筒に「物理学教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留で送付すること。最終段階で、講演をお願いし、面接を行うことがあります。

名古屋大学太陽地球環境研究所 研究機関研究員

1. 研究機関研究員 1 名
2. 太陽地球環境研究所
3. 太陽地球系科学
4. 本研究所は、「太陽地球環境の構造と動態の研究」を目的とする全国共同利用研究所として活動を続けています。本研究所が関わる太陽地球系科学は、太

陽からのエネルギー放射によって支配される地球周辺から、太陽圏までの広大な領域で起こる現象を研究対象としており、大気圏環境、電磁気圏環境、太陽圏環境及び総合解析の4研究部門と1センター（ジオスペース研究センター）及び客員部門（国内客員及び外国人客員）のもとに研究を推進しております。本研究所では以下の内容で、本研究所教員と協力して研究を行う意欲的な若手研究者（研究機関研究員）を公募いたします。

5. (1) 決定次第でできるだけ早い時期
(2) 1年（審査の上、1年更新可能）
6. 次のすべての条件を満たしている者
 - (1) 平成17年4月1日現在で年齢35歳未満。
 - (2) 博士の学位を有しているか、又は学位取得が確実であること。
 - (3) 着任予定時に主たる職、或いは大学院生、研究生等の身分を有しないこと。
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究計画、(4) 論文リスト及び主要論文別刷り各1部（3編以内）、(5) 着任可能時期、(6) 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記した書面、他薦の場合は2名の方からの推薦書
8. 平成17年9月16日（金）必着
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所長 藤井良一 へ
(2) 同上 (Tel: 0533-86-3154)
10. 封筒の表に「研究機関研究員応募書類在中」と朱書きし、応募書類を書留でご提出下さい。
11. 身分・待遇：一般職の非常勤職員（講師）、月額約30万円（1週間当たり30時間相当）

独立行政法人理化学研究所 平成18年度独立主幹研究員

1. 2名程度
2. (1) 理化学研究所 和光研究所
(2) 原則として和光キャンパス内
3. 新領域開拓分野または異分野融合分野を含めた、物理学、工学、化学、生物科学または医科学の科学技術分野で、理化学研究所での実施可能な研究
5. 契約は平成18年4月1日から1年として、平成23年3月31日までの5年間を限度として毎年度契約更新可能
6. 自然科学の博士号取得後、研究経歴を有する若手研究者で年齢は40歳程度を上限とする。
7. 応募意向のある方は、平成17年9月20日（金）

までに募集要項をご請求ください。氏名（ふりがな）、送付先住所、電話番号、送付部数を e-mail か Fax でお知らせください。

8. 平成17年9月26日（月）17:00必着
9. (1) 独立行政法人理化学研究所研究調整部
研究交流課独立主幹研究員制度担当
(2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1
e-mail: dokuritsu@riken.jp
Fax: 048-462-4714
http://www.riken.jp
11. 本件は政府予算の成立を前提としております。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

名古屋大学大学院理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻教員

1. 2004年7月（第97巻7号）
2. 栗田光樹夫（名古屋大学学振特別研究員）
3. 2005年8月1日

研究助成

2006年度女性科学者に明るい未来をの会 「猿橋賞」候補者募集

女性科学者に明るい未来をの会より、「猿橋賞」候補者の推薦を依頼します。下記の要領で応募して下さい。募集内容、応募用紙などは各学会事務局に送付してありますが、電子メールでお申し頂ければ、様子を添付ファイルでお送りします。また、<http://www.sarunashi.net/> からダウンロードできます。

- 1) 対象：推薦締切日に50歳未満で、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者
- 2) 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件（1名）
- 3) 締切日：2005年11月30日
- 4) 応募方法：所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（800字程度）、略歴、推薦者（個人・団体）、及び主な業績リストを記入して、主な論文別刷り10編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5) の送付先までお送り下さい。
- 5) 推薦書類送付先：

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-4-3

UFJ 信託銀行リテール総括部

女性自然科学者研究支援基金 江川康治

(封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。
書類は、猿橋賞選考のために選考委員会などで用い
られます。書類は返却いたしませんのでご了承さ
い)

6) 問合せ先: saruhashi2005@saruhashi.net

第 8 回大学婦人協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣旨: 本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈さ
れた資金をもとにして、自然科学を専門とする女性
科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材
を育成することを目的として、1998 年に設けられた
ものです。

対象: 自然科学分野において、優れた研究成果を上げ
ており、科学の発展に貢献することが期待される 40
歳未満(応募締切日現在)の女性科学者を対象とし
ています。

授賞件数: 年 2 件以内賞状および副賞 50 万円を贈呈
します。

提出書類: 1. 推薦状, 2. 履歴書(写真添付), 3. 研究
業績リスト, 4. 主要な論文別刷 5 編以内それぞれ 3
部(コピーでも可), 5. 研究題目とその概要および
今後の展望と抱負を記したもの(A4 判 2 頁以内)

応募締切日: 2005 年 11 月 30 日(水)(必着)

書類送付先および連絡先: 社団法人大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町 11-6-101

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889

http://www.jauw.org

e-mail: jauw@tky2.3web.ne.jp

そ の 他

第 4 回坂田・早川記念レクチャー 講演者推薦のお願い

選考委員会委員長 佐藤修二
名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専
攻は、同大学物理学教室創設以来、素粒子物理学と宇
宙物理学の分野において日本の研究の発展に寄与し、
また、多くの人材を育てて、重要な貢献をしてきまし
た。

特に、素粒子の分野では、故坂田昌一教授が開拓さ
れた、クォーク模型、ニュートリノ混合などの研究か
ら発展した現在の現象論の主流の源となり、宇宙の分
野では、故早川幸男教授はエックス線や赤外線など多
波長観測天文学が開拓され、観測的宇宙論や星間物質
の地平が大きく発展しています。

坂田・早川記念レクチャー制度は、両教授の業績を
たたえつつ、未来の発展につながる、次世代を担う研
究者を育成することを目的として設けられました。記
念講演者には、若者が物理の面白さを幅広い視点に
立って理解し、その道に自らも挑戦したいと大志を燃
やす契機となる講演をお願いしております。

第 1 回は益川敏英氏(素粒子)、第 2 回は田中靖郎氏
(宇宙)、第 3 回は戸塚洋二氏(素粒子)を講演者に選
考して、記念メダルを授与するとともに、それぞれ
「坂田理論が切り開いたもの」、「X 線で宇宙を探る
—X 線天文学 40 年の歩み—」、「地底から宇宙をさぐ
る」と題した講演を、高校生・一般市民に向けて行っ
ていただきました。本年も 12 月に第 4 回記念レク
チャーを開催します。今年は宇宙および天文の分野に
おいて、ふさわしい講演者の推薦をお願いします。

推薦においては、候補者のお名前に、ごく簡単な推
薦理由を添付してください。

推薦の受付締切: 9 月 30 日(金)必着

推薦書送付先: 郵送、e-mail のいずれでも受け付けま
す。

郵送: 〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部物理 Z 研 佐藤修二宛

e-mail: ssato@z.phys.nagoya-u.ac.jp

※本記念レクチャーは名古屋大学大学院理学研究科・
名古屋市科学館共催で、名古屋市科学館サイエンス
ホールにおいて開催されます。

会 務 案 内

【2005 年度秋季通常総会開催のお知らせ】

正会員各位

社団法人 日本天文学会 理事長 祖父江義明

一綴じ込みの返信用葉書で 10 月 1 日(土)

までに到着するようご投票を！—

下記のとおり 2005 年度秋季通常総会を開催いたし

ますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席される場合には、下記の議案をよくお読みの上、次の(1)または(2)のどちらかの対応をして下さい。いずれの場合も、総会出席とみなされます。

- (1) 綴じ込みの総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。
- (2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。

「葉書」は、10月1日(土)までに天文学会事務所に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。

○「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない正会員は、綴じ込みの総会返信用「葉書」で議案に対する賛否の意志表示をするか、委任状を提出して下さい。(委任状にはとくに指定の用紙はありません。)

賛否の意志表示をされる方は、それぞれの議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて事務所宛にお送り下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えられません。

- 1) 所定の「葉書」を用いないもの。
- 2) 会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 氏名を自署していないもの。
- 4) 投票権のない者からの投票(正会員以外の者)。
- 5) 2重投票。

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

- 1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- 2) 委任正会員の会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- 4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- 5) 被委任正会員として、単に役職名の“理事長”または“議長”と書かれたもの。

○2005年度秋季通常総会

日時: 2005年10月7日(金)

総会出席者確認: 16時30分~17時00分

総会開始 17時00分~

場所: 札幌コンベンションセンター

2階204号室(B会場)

注意: 総会出席確認作業の時間中に会場へ入場して下さい。確認された方には表決の時に必要な札をお渡しします。

○議案と報告(本誌604頁から607頁迄参照)

議案:

第1号議案 2006年度事業計画書(案)

第2号議案 2006年度収支予算書(案)

報告:

日本天文学会百年史編纂委員の増員

[第1号議案]

日本天文学会 2006年度事業計画書(案)

(2006年1月1日~2006年12月31日まで)

1. 出版物の刊行

- 1) 欧文研究報告
第58巻1号~第58巻6号, 隔月刊, A4判, 発行部数1,850, 年間1,300ページ
- 2) 天文月報
第99巻1号~第99巻12号, 月刊, B5判, 発行部数3,200, 毎号64ページを予定
- 3) 年会講演予稿集
春・秋季年会の講演予稿集2巻, 発行部数各850を予定
- 4) ジュニアセッション予稿集
春季年会予稿集発行部数500を予定
- 5) 公開講演会冊子
春秋の公開講演会に配付する冊子各400部
- 6) 天文学会会員名簿の発行
隔年で発行している会員名簿の更新, 発行部数3,500を予定

2. 年会・総会の開催

- 1) 春季年會を2006年3月27日(月)から29日(水)にわたって, 和歌山大学(和歌山市。開催地理事: 富田晃彦)にて開催する。年会期間中に通

常総会とジュニアセッション及び天文教育フォーラムを開催する。また、公開講演会を3月26日(日)に予定。

- 2) 秋季年会を2006年9月19日(火)から21日(木)にわたって、九州国際大学(北九州市。開催地理事: 浅田 正)にて開催する。また、年会期間中に通常総会とジュニアセッション(ポスターのみ)及び天文教育フォーラムを開催する。公開講演会は9月18日(月・祝)に予定。

3. 理事・監事の選出、各種委員会委員の選出

- 1) 新理事・監事の選出
- 2) 各種委員会委員の選出

4. 評議員会、理事会

- 1) 評議員会: 1月中旬, 7月中旬および春・秋季年会中に開催予定
- 2) 理事会: 1月上旬, 7月上旬および春・秋季年会中に開催予定

5. 各賞の授与

- 1) 天体発見賞・天体発見功労賞
新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功労賞を授与する。
- 2) 日本天文学会研究奨励賞
特に顕著な研究成果を上げた若手研究者(3名以内)を選定し研究奨励賞を授与する。
- 3) 日本天文学会林忠四郎賞
天文学の分野において独創的で、かつ分野に寄与するところの大きい研究に対して林 忠四郎賞を授与する(1件)。
- 4) 日本天文学会欧文研究報告論文賞
日本天文学会欧文研究報告に掲載された論文の中から、特に優れた論文の著者に対して欧文研究報告論文賞を授与する(2編以内)。
- 5) 日本天文学会天文功労賞
天体観測活動などが、天文学の進歩及び普及に寄与したことに對して授与する(長期的業績1名, 短期的業績複数名)。

6. 助成金

- 1) 内地留学奨学金受給者の募集(主にアマチュアを対象)を行い、年内に選考し若干名に奨学金を支給する。
- 2) 早川幸男基金により、若手天文研究者の海外における観測、国際共同研究、もしくは研究発表のための渡航費の援助を行う。

- 3) 賛助会員会費により、学生等の年会(春秋)発表者の旅費補助をする。

7. 各種委員会

- 1) 欧文研究報告編集顧問: 10名
- 2) 欧文研究報告編集委員会: 10名
- 3) 天文月報編集委員会: 10名
- 4) 年会実行委員会: 9名
- 5) 天文教育委員会: 9名
- 6) 選挙管理委員会: 5名
- 7) 林 忠四郎賞選考委員会(欧文研究報告論文賞を含む): 6名
- 8) 研究奨励賞選考委員会: 5名
- 9) 天体発見賞選考委員会(天文功労賞を含む): 6名
- 10) 内地留学奨学金選考委員会: 6名
- 11) 早川幸男基金選考委員会: 5名
- 12) ネットワーク委員会: 2名
- 13) 天文教材委員会: 8名
- 14) 創立100周年記念出版編集委員会: 17名
- 15) ジュニアセッション実行委員会: 5名
- 16) 天文学会100年史編纂委員会: 11名

8. 後援事業

- 1) 他の学術団体等の天文関係諸企画に対して、可能な限り後援・協賛等をする。

9. その他

- 1) 2008年(平成20年)は天文学会創立100年に当る。記念事業の検討をするためのワーキンググループが理事会を中心として組織されており、引き続き具体的な検討を行っていく。
- 2) 民間財団等の、研究助成公募および天文学に関連した賞に対して、優れた研究者を学会から積極的に推薦する。

以上

[第2号議案]

日本天文学会 2006 年度収支予算書 (案)

(2006年1月1日～12月31日まで)

《一般会計》

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額
基本財産運用収入	1,500	4,000
基本財産利息収入	1,500	4,000
会 費 収 入	37,720,000	36,520,000
正会員会費	23,940,000	21,960,000
正会員(学生)会費	4,160,000	4,550,000
準会員会費	9,200,000	9,600,000
団体会員会費	420,000	410,000
事 業 収 入	27,533,000	26,544,000
欧文研究報告発行事業収入	15,733,000	14,144,000
購 読 料	4,231,500	4,216,000
掲 載 料	10,136,500	8,563,000
別 刷 代	1,365,000	1,365,000
天文月報発行事業収入	3,900,000	3,850,000
購 読 料	600,000	550,000
別 刷 代	1,000,000	1,000,000
広 告 料	2,300,000	2,300,000
年会事業収入	7,900,000	8,550,000
予稿集頒布収入	1,300,000	2,600,000
登 録 料	6,500,000	5,900,000
年会雑収入	100,000	50,000
補助金等収入	9,260,000	9,160,000
定期刊行物補助金	8,000,000	7,900,000
公開講演会補助金	1,260,000	1,260,000
寄 付 金 収 入	100,000	150,000
寄付金収入	100,000	150,000
印 税 収 入	1,030,000	2,030,000
星座早見印税	1,000,000	2,000,000
その他の印税	30,000	30,000
雑 収 入	401,000	701,000
受取利息	1,000	1,000
特別企画収入	300,000	500,000
その他の収入	100,000	200,000
延 滞 金		
特定預金取崩収入	0	0
減価償却預金取崩	0	0
退職預金取崩	0	0
当期収入合計 (A)	76,045,500	75,109,000
繰越収支差額	38,411,036	33,594,945
収入合計 (B)	114,456,536	108,703,945

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額
事 業 費	54,430,100	52,057,000
欧文研究報告発行事業費	28,630,100	26,807,000
直接出版費	16,130,400	14,462,000
別刷印刷費	623,700	624,000
人 件 費	5,300,000	5,450,000
謝 金	4,186,000	4,121,000
送料運搬費	2,040,000	1,800,000
消耗品費	200,000	200,000
雑 費	150,000	150,000
天文月報発行事業費	17,500,000	17,100,000
直接印刷費	9,000,000	8,500,000
別刷印刷費	800,000	800,000
人 件 費	1,300,000	1,300,000
謝 金	1,700,000	2,700,000
送料運搬費	3,000,000	3,000,000
消耗品費	600,000	500,000
雑 費	1,100,000	300,000
年会事業費	8,300,000	8,150,000
予稿集印刷費	2,000,000	2,000,000
謝 金	1,300,000	1,150,000
送料運搬費	200,000	250,000
会 場 費	2,100,000	2,200,000
消耗品費	300,000	350,000
人 件 費	1,300,000	1,300,000
雑 費	200,000	200,000
旅費交通費	400,000	300,000
保育室運営経費	250,000	200,000
ジュニアセッション経費	250,000	200,000
管 理 費	19,635,000	17,833,000
人 件 費	7,500,000	7,300,000
謝 金	400,000	200,000
会 議 費	300,000	300,000
負 担 金	10,000	10,000
租税公課	500,000	0
法定福利費	1,100,000	863,000
旅費交通費	1,100,000	1,035,000
送料通信費	1,000,000	700,000
什器備品費	700,000	700,000
消耗品費	1,000,000	1,000,000
印刷製本費	1,000,000	500,000
光熱水料費	250,000	250,000
賃 借 料	1,650,000	1,650,000
保 険 料	15,000	15,000
諸 手 数 料	300,000	350,000
修 繕 費	50,000	50,000
書籍購入費	200,000	300,000
特別企画調製費	200,000	350,000
公開講演会諸経費	1,260,000	1,260,000
天体発見賞等経費	800,000	800,000
雑 費	300,000	200,000
退職金支出	0	0
徴収不能額		
特定預金支出	440,000	430,000
減価償却預金引当支出	0	0
退職引当預金支出	440,000	430,000
予 備 費	39,951,436	38,383,945
当期支出合計 (C)	114,456,536	108,703,945
当期収支差額 (A) - (C)	-38,411,036	-33,594,945
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	0

《特別会計》

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度予算額
学術交流費 会 計	取 入 の 部		
	賛助会員会費収入	1,380,000	1,350,000
	受 取 利 息	10	10
	当期収入合計 (A)	1,380,010	1,350,010
	繰越収支差額	2,146,381	626,224
	収入合計 (B)	3,526,391	1,976,234
	支 出 の 部		
	学術交流費	1,350,000	1,350,000
	雑 費	3,000	1,000
	徴収不能額		
	当期支出合計 (C)	1,353,000	1,351,000
	当期収支差額 (A) - (C)	27,010	-990
次期繰越収支差額 (B) - (C)	2,173,391	625,234	
内地留学 奨学金基金 会 計	取 入 の 部		
	受 取 利 息	500	500
	当期収入合計 (A)	500	500
	繰越収支差額	3,490,829	3,792,787
	収入合計 (B)	3,491,329	3,793,287
	支 出 の 部		
	奨学金支出	250,000	250,000
	雑 費	2,000	2,000
	旅費支出	0	0
	当期支出合計 (C)	252,000	252,000
	当期収支差額 (A) - (C)	-251,500	-251,500
	次期繰越収支差額 (B) - (C)	3,239,329	3,541,287
研究奨励賞 基金会計	取 入 の 部		
	寄付金収入	100,000	10,000
	受 取 利 息	10	10
	当期収入合計 (A)	100,010	10,010
	繰越収支差額	5,890,503	4,911,059
	収入合計 (B)	5,990,513	4,921,069
	支 出 の 部		
	研究奨励賞賞金	300,000	300,000
	雑 費	20,000	15,000
	旅費支出	20,000	50,000
	当期支出合計 (C)	340,000	365,000
	当期収支差額 (A) - (C)	-239,990	-354,990
次期繰越収支差額 (B) - (C)	5,650,513	4,556,069	
早川幸男 基金会計	取 入 の 部		
	寄付金収入	1,000,000	1,000,000
	受 取 利 息	5,000	6,000
	当期収入合計 (A)	1,005,000	1,006,000
	繰越収支差額	31,826,193	29,573,648
	収入合計 (B)	32,831,193	30,579,648
	支 出 の 部		
	研究補助支出	2,700,000	2,700,000
	雑 費	10,000	10,000
	当期支出合計 (C)	2,710,000	2,710,000
	当期収支差額 (A) - (C)	-1,705,000	-1,704,000
	次期繰越収支差額 (B) - (C)	30,121,193	27,869,648

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度予算額
林忠四郎賞 基金会計	取 入 の 部		
	受 取 利 息	2,000	3,000
	当期収入合計 (A)	2,000	3,000
	繰越収支差額	13,601,274	13,978,532
	収入合計 (B)	13,603,274	13,981,532
	支 出 の 部		
	林 賞 賞 金	300,000	300,000
	雑 費	20,000	20,000
	旅 費 支 出	100,000	100,000
	当期支出合計 (C)	420,000	420,000
	当期収支差額 (A) - (C)	-418,000	-417,000
	次期繰越収支差額 (B) - (C)	13,183,274	13,561,532
創立100周年 記念出版事業 基金会計	取 入 の 部		
	受 取 利 息	4,000	200
	当期収入合計 (A)	4,000	200
	繰越収支差額	29,672,792	29,807,244
	収入合計 (B)	29,676,792	29,807,444
	支 出 の 部		
	出 版 経 費	0	0
	雑 費	45,000	45,000
	旅 費 支 出	1,500,000	264,000
	当期支出合計 (C)	1,545,000	309,000
	当期収支差額 (A) - (C)	-1,541,000	-308,800
	次期繰越収支差額 (B) - (C)	28,131,792	29,498,444

【理事会議事録】

日 時：2005年7月2日（土）11:00～18:15

場 所：国立天文台南研大会議室

出席者：祖父江，花岡，杉山，北本，関井，蜂巢，
和田，田，馬場，富田，浅田

欠席者：なし

有効委任状提出者：井上，黒田，百瀬，成相

ほかに，河野年会実行委員（百瀬理事の代理），東條事務長が出席した。

議 長：祖父江義明

署名人：北本俊二，花岡庸一郎

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

花岡理事より前回（2005年3月28日）の理事会議事録が報告され，原案どおり承認された。

2. 2005年秋季年会について（資料12）

馬場理事より準備状況について報告がされた。10月5日に記者会見，10月6～8日に年会講演で懇親会は10月7日である。懇親会場は年会場から地下鉄で2駅離れているので，総会出席者はバスで懇親会場へ輸送する計画である。公開講演会は10月9日に札幌コンベンションセンターにおいて世界物理年企画として開催，共催の札幌国際プラザにより各方面への広報が行われる。

引き続き2006年の和歌山大学での春の年会について富田理事より，3月26日に記者会見と講演会，27～29日に年会の予定で準備を進めている，会場がやや交通不便なので輸送手段を検討中である，との報告があった。また，2006秋の九州国際大での年会について浅田理事より，9月18日に記者会見と講演会（児童文化科学館プラネタリウム，惑星関連の話題を予定），19～21日に年会の予定で準備中との報告があった。

3. その他

(1) JSF 衛星コンテストについて

北本理事より，6月10日のコンテスト実行委員会に出席した件について報告がされた。JSFは天文学会が主催者として加わることを希望しているが，その場合学会が人員及び費用を負担することが必要となる。参加学会と実行委員会の役割分担をはっきりさせた上で，具体的に学会側によどのような負担が発生するか実行委員会側が見積もることになっている。今後学会側でどのような形で参加するのか対応の検討が必要であり，可能なら10月の理事会で結論を出し

たい。

(2) 講師派遣データベースなど

田理事より，5月にデータベース立ち上げめどがつき，6月に講師の新規登録募集を開始し，評議員経験者や理事に登録を呼びかけているとの報告があった。データベースの問題点の指摘もされており，今後改良やまた学会のウェブページからわかりやすくリンクする等を行っていくが，今回の報告をもってデータベースは正式に立ち上がったという認識である。記者会見で発表して広く周知しては，との意見も出された。学会で費用を負担する講師派遣キャンペーンを行って広く利用されるようにはからうことも検討する。

(3) 世界物理年について

祖父江理事長より報告がされた。世界物理年日本委員会では生徒向けの春休みイベント，学生一般向けの春のイベントなど行い，また小中高校生向けの夏休み中のイベントの開催を予定しているが，これらには天文学会員が大いに貢献している。秋の年会の公開講演会も物理年企画である。このように天文学会の関係者がイベントへの参加を要請される場合，その日当謝礼は学会が負担する方向である。なおこれに関連して，学会では講演の謝礼は1万円としているが，安すぎるのではないかとという指摘が祖父江理事長よりあった。また，天文学会は日本委員会の財政や物理年イベントの予算には直接関与はしないことにはなっているものの，委員会メンバーとして金銭的な面も注意して見守る必要がある，との指摘があった。

(4) 天文オリンピックについて

花岡理事より，文科省にはオブザーバー派遣をすると連絡しており，今年開催場所や日程が具体化してきたので実際に現地に行ってもらえる方の人選を行う，との報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認（資料2）

花岡理事より資料に基づき新会員の報告があり，入会が承認された。

2. 2006年度事業計画書案（資料3）

花岡理事より資料に基づき2006年度事業計画書案の提案があり，承認された。

3. 2006年度収支予算書案（資料4）

北本理事より資料に基づき2006年度収支予算書案の提案があり，諸事業について後ほど議論する部

分を除き、承認された。

4. 年会運営について（資料5）

河野年会実行委員より年会運営に関する提案について説明があり、以下のように議論した。

- (1) 企画セッションについて、基調講演の一部であるr講演の扱いを明確化するため、r講演は1企画セッションあたり4件以下とし、また従来どおり招待する非会員（参加費・講演登録費免除）は4名程度を上限とする、という提案がされた。r講演数は制限が必要なのか、招待する非会員数の制限はやめてはどうか、その場合非会員で普通に参加する人と招待する人との差はどう考えるのか、などの議論があった。結論として、r講演が多すぎるのは好ましくはないが、あらわに数の制限をするのではなく年会実行委員会で決める常識的なセッションの構成に従わせる、ということになった。招待する非会員数の制限はそのまま残すこととした。
- (2) 年会講演数の増大に伴い、従来のスケジュールで予稿締め切り・プログラム決定・月報への掲載の一連の作業を行うのが困難になってきており、予稿締め切りを早めるか月報へのプログラム掲載を見直すかする必要あることについて、前回理事会に引き続き議論を行った。月報への掲載については、止めたり遅らせたりするのは好ましくない、との意見が多数であった。一方、前回暫定措置として締め切りを早めることにした2005年秋の学会の予稿（理事会の時点で受付を既に終了）については、講演数が減ったということもまた締め切りが早いことについてクレームもきていない。そこで締め切りを前倒しすることに決定し、それによって懸念されるキャンセルの増加や予稿の質の低下についてはしばらく様子を見ることとなった。

5. 黒字財政と諸事業について（席上配布資料）

関井理事・北本理事から、学会財政の黒字を会員への還元や新事業に投入していく計画の諸項目について説明され、その中で以下について説明・議論が行われた。

- ジュニアセッションに対する支出増 金額が小さいため（5万円/年）会計の判断で既に認めた。
- 月報PDFファイルの購入 印刷会社が月報印刷のために作っているものを学会で購入するというものである。1万円/月程度であり、進めることとなった。今後印刷会社との契約にPDFファイルの納入も含める。
- 月報（印刷版しかない2003年以前のもの）の

キャンによるPDF化 今年度～来年度に最近の1994年～2003年、および創刊からの10年分について実施することを認めた。PDF化したものはウェブに掲載して公開し、その利用頻度を見て残りの分の作業の進め方を検討する。

- 学会予稿集の値下げ 最近では年会の会計が黒字となっており、現在2,000円としている予稿集の値下げが可能である。ただし1,000円に値下げすると予稿集制作費は予稿集売上げだけではまかなえない。1,500円ではどうかという意見もあったが1,000円に賛成というのが多数意見であったのでこれに決し、来年度から実施する。
 - PASJ投稿料減額等 蜂巢理事および学会事務の黒岩氏より、PASJへの投稿誘致のため投稿料を半額および無料にした場合の費用見積もりの説明がされた。例えば半額キャンペーンでは1.5倍程度投稿論文数が増えることを想定できるが、学会の負担増も少なくない。これによる予算の変化の大きさは学会の財政を左右するほどであるため、評議員会でもこの件について説明し議論を行っていく。また、祖父江理事長よりPASJの論文数を増やし月刊化を目指すことへ向けての呼びかけがあった。月刊化実現によりPASJの地位向上を図る、という趣旨である。
 - 百年史出版 杉山理事より、簡易的に製作すると500万円程度、書店で扱えるような体裁にすると700万円以上、場合によっては900万円を超える、という大まかな見積もりの紹介があった。金額を見積もる上で前提となる100年史の配布範囲については準会員まで含めた会員全部に配るのがよいのではないか、体裁も書店で扱えるレベルのものがよいのでは、という意見があった。今後も編集委員を中心に検討を続ける。
 - 評議員会には諸事業のなかで理事会の議論で進んだものを中心に紹介し、議論を行う。
6. 2005年秋季総会議題（資料6）
原案どおり承認した。
7. 民間の研究助成・賞について：委員会設置など（資料7）
杉山理事より、賞や助成への学会からの推薦が少ないため、もっと積極的に推薦される方策を検討中である旨報告があった。これについて祖父江理事長より、推薦依頼を受けたとき理事長・副理事長が推薦者を積極的に出せるような形で進むような事務作業の流れをつくっていくという発言があった。
8. 男女共同参画連絡会について
祖父江理事長より、現在の参画連絡会の担当者が

形式的に理事長になっているが、対応するための実働がかなり必要であり、学会として実質的担当者が必要である、現在黒田副理事長以下3人によるワーキンググループを発足すべく依頼中である、との報告があった。

9. その他

(1) JAXA 長期ビジョンについて (資料8)

花岡理事より経緯の説明がされた。JAXA から出された長期ビジョンに対する提言が惑星科学会から出されており、また宇宙空間研連でも検討中である。天文学会としても宇宙科学の発展を期待する立場からの提言ができないか、という提案がある。天文学会はスペース観測ばかりではないので学会としてのまとめは難しいのではないかと、天文研連の方が提言を行うのに適当ではないかという意見もあったが、一方 JAXA は日本の宇宙科学に責任を持つ機関であるので学会として期待される将来像を表明するのは重要ではないか、との指摘もあった。祖父江理事長が中心となって方向を検討することとなった。

(2) 教育に関する学会声明について (教育問題懇談会) (席上配布資料)

祖父江理事長より経緯および要望書案について報告された。教育問題懇談会では3回のシンポジウムと天文教育フォーラムを開催し、6月26日には中教審への要望書をまとめる方向の会合を行った。あまり具体的に要望事項を入れるのは細かすぎてよくない、具体的要望事項は補足説明という形にしてはどうか、小学校段階でビッグバンまで入れるべきかどうかなど具体的事項の内容も少し見直しが必要、要望書の内容をどうすれば指導要領に反映させられるかその戦略が重要ではないか、などの意見が出され、これらを参考に要望書案を改訂して評議員会にて議論の内容を含めて紹介することとなった。

(3) 2009年「世界天文年」について (資料9)

祖父江理事長より、ガリレオの望遠鏡での天文観測から400年を記念して2009年を世界天文年とすることが提案されていることについて、国立天文台海部台長から、学会としてユネスコでの天文年制定へのはたらきかけに協賛してほしいとの依頼があり、メールでの意見集約の結果評議員と理事ともに賛成多数で天文学会として協賛することを決定した旨報告があった。世界天文年の日本委員会のようなものを作ると、天文学会の実質的に中心になるであろうことから負担が大きくなることが予想され、マンパワーをどのように確保す

るか、資金の確保はどうか、等多くの検討項目があることが指摘された。

(4) PASJ の出版・販売について (資料10)

(上記5. の中で合わせて議論した)

(5) 百年史編纂委員の増員 (資料11)

花岡理事より京都大学の富田良雄氏を委員に追加したい旨の提案があることが報告され、承認された。

(6) 夜空を守るため高速道路上向き照明の禁止についての要望書 (席上配布資料)

祖父江理事長より、最近の高速道路の上向き照明が夜空を強く照らしており天体観測に大きな支障となるので、禁止できないか要望書を出したい、との説明があった。関連する運動を行っている団体もあるので、連絡を取りつつ進めることとなった。

(7) 次回以降の理事会日程

次回は秋季年会中、10月6日の昼休みに開催し、次々回は2006年1月14日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催することとなった。

2005年8月2日

議長 祖父江義明 印
署名人 北本 俊二 印
署名人 花岡庸一郎 印

評議員会議事録

日時: 2005年7月9日(土)11:00~15:30

場所: 国立天文台南研大会議室

出席者: 太田, 岡村, 海部, 柴田, 須藤, 千田, 福井, 舞原, 吉井, 安東, 家, 大橋, 小杉, 観山 以上14名

有効委任状提出者: 井上, 高橋, 高原, 牧島, 池内, 梅村, 佐藤, 谷口, 山本 以上9名

欠席者: 小山

他に理事会から、祖父江理事長、黒田副理事長、花岡、杉山、北本、関井、蜂巣理事、及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち、議長及び署名人を選出した。

議長: 須藤 靖

署名人: 海部宣男, 岡村定矩

報告

1. 前回議事録の確認 (資料1)

花岡理事より前回(2005年3月29日)の評議員会議事録が報告され、承認された。

2. 2005年秋季年会について

花岡理事より10月5日に記者会見、10月6～8日に年会講演、10月9日に公開講演会として準備が順調に進行している旨報告がされた。

3. その他

(1) 講師派遣データベースなど

教育委員会の努力により講師派遣データベースが立ち上がったことについて花岡理事より報告された。評議員の方にも講師の積極的な登録をお願いする。既に頻繁に講演を依頼されている人の場合データベースに登録してさらに依頼が増えても対応できない、講師へ直接依頼ができるというだけでなく、依頼を調整できるようにする必要があるのでは、という指摘があった。

(2) 百年史編纂委員の増員(資料2)

花岡理事より、理事会に百年史編纂委員に京都大学の富田氏を新たに加えて11名とすることが提案され承認されたことについて報告された。

(3) 学術交流費の報告書について

千田評議員より、賛助会員会費による旅費補助事業である学術交流費についての昨年度事業報告書が天文天体物理若手の会により作成され、4月上旬賛助会員宛に配布された旨報告があった。報告書を出したのは今回が初めてであるが、補助を受ける側の義務として今後引き続き報告書を出していく、とのことである。

20万円では足りないのではないか、という指摘があった。旅費等諸経費は事業全体で500万円を予定しているが、2006年度は特にまとまった経費の必要な年になるであろうことから、2006年度に150万円の旅費を配分するよう変更した。他については、以下の新規事業案等についての議論を経て、原案通り承認した。

3. 新規事業案の現況(資料5)

関井理事より、現在の学会の財政状況を踏まえた新規事業及び既存事業の見直しについて説明・提案があった。月報については新規発行分の印刷用PDFファイルの購入とスキャンによる旧号のPDF化を予算化しており、100号記念号は検討中であること、年会については予稿集の値下げを予算化、準会員講演登録料の見直しを検討中であること、が報告された。その他、講師派遣キャンペーン、百周年祝賀会・講演会、百年史、学会事務体制見直しも検討中であり、また会費の変更も検討中であるとの報告があった。来年度予算化が提案されていたものについては承認した。準会員の年会における講演登録料の見直し(値上げ)は、研究者でありながら準会員として研究発表する人の正会員への移行を促進するものであるが、一方準会員はアマチュアが多く、学会の中では研究者とアマチュアは共存しており、アマチュアを学会発表から遠ざけるような形は避けたいとの意見もあった。

PASJについての新企画は予算の変更の規模が大きく、以下のように別途議論した。

4. PASJの出版・販売について(資料6,席上配布資料)

蜂巢理事よりPASJの雑誌としての規模の充実・拡大へ向けて半額ないし無料化キャンペーンを行いたいと考えているとの提案があり、その場合に必要となる費用について試算の報告があった。前回半額キャンペーンを行ったときには50%の投稿数増加があり、キャンペーンはPASJのパワーアップに効果的との認識である。キャンペーンは1年より2年続ける方が十分な効果が得られるのではないかと、しかし財政的影響も大きく百周年記念事業にも予算を見ておく必要があるのでは注意が必要である、という指摘があった。キャンペーンの時期については、百周年とあわせるのもよい、いやもっと早く2006年からのほうがよいのでは、という意見があった。全体として半額化等のキャンペーンには賛同が得られたが、PASJの今後の予算については、出版社との契約の仕方によって学会負担分が大きく変わり得ることなど他にも種々の不確定要素があることが報告さ

報告

1. 2006年度事業計画書案(資料3)

花岡理事より、2006年度事業計画書案が提案され、原案通り承認された。なお、2006年は会員名簿出版の年であるが、特に個人情報保護法の制定もあって個人情報の取り扱いに注意が必要な状況であり、他の学会では名簿の出版を止めたところもあるとの情報もあった。また、名簿を出すにしてもその項目については検討しなおしてもよいのでは、との発言もあった。理事・事務側で今後取り扱いを検討する。

2. 2006年度収支予算書案(資料4)

北本理事より2006年度収支予算書案について説明がされた。早川基金については現在全額補助と半額補助があるが、半額補助の是非について議論があり、また科研費による旅費支出と組み合わせられるのかなど具体的な使い方についても議論があったので、その内容を選考委員会にも伝え、引き続き検討する。また、創立百周年出版事業について、執筆者の会合が必要でありそのための旅費が提案の予算額

れたため、結局 2006 年度からの実施は今回は保留とし、引き続き検討することとなった。

また、祖父江理事長より PASJ の地位向上と言うことに加え、日本の税金による研究成果を日本の学会誌に発表するという意味も含めて、PASJ 月刊化へ向けてのよびかけをすることについて説明があった。

5. 初等・中等教育に関する学会要望書について（資料 7, 席上配布資料）

祖父江理事長より要望書案をまとめるに至った経緯について教育懇談会の活動も含めて説明があり、今後学習指導要領の改訂時期（この秋までに初等中等教育分科会が答申を出す）を目標にして要望書の中教審・初等中等教育分科会等へ送付し、また記者会見も行って発表したい旨提案があった。学会として要望書を発表することについては、積極的に出すべきであるということで承認された。また内容については、学会の要望書としてあるべき全体のスタンスから文案に盛り込むべき具体的項目まで様々な意見が出された。今回の議論の内容を踏まえて祖父江理事長、松田懇談会座長がさらに改訂し、eメールで評議員に回覧しコメントを求めた上で最終版とし、発表することとなった。改訂の期限と発表のタイミングについては理事長に判断を任せる。

6. 2009 年「国際天文年」について（資料 8）

祖父江理事長より、学会として世界天文年への賛同を決定したことについて報告があり、また海部評議員より IAU での世界天文年の発議、日本国内での提案の状況等経緯の説明があった。ユネスコ国内委員会には提案済みであり、今年のユネスコ総会で承認されることを期待しているとのことである。承認されれば今後天文学会を含めた関連団体で実行委員会を結成することが必要となる。ただし、人や予算について学会で大きな負担をするのは困難であり、天文財団や国立天文台による実質的な面でのサポートを期待する、という認識である。

7. 2005 年秋季総会議題（資料 9）

花岡理事より説明があり、原案通り承認された。

8. その他

(1) 理科年表シンポジウムについて

海部評議員より、12 月に理科年表シンポジウムを予定しており、天文学会にも協賛を依頼していることについて紹介があった。理科年表は近年大きく変貌しており、特に環境編を加えたことについては注目を集めている。インターネット版理科年表の構想もある。このような機会に、正確なデータを保持しておくことの重要性をアピールす

ることができると考えている、とのことである。

- (2) JAXA の長期ビジョンに対する提言について
花岡理事、祖父江理事長から、JAXA の長期ビジョンに対する提言を学会から出してはどうか、という提案があることについて説明があった。小杉評議員より JAXA の宇宙科学の現状について、すぐに役立つ実用偏重とアメリカのブッシュ新宇宙政策に対応する有人宇宙飛行指向の日本の宇宙開発全体の将来像の中であって、宇宙科学はその独自の意義が忘れられて片隅に追いやられかねない危機的状況にあるという認識を持っている、このため学会等の学術コミュニティから宇宙科学振興の働きかけがなされることには期待が大きい、との説明があった。現段階では天文関係者がまず宇宙科学の将来への関心と危機感を持ち議論を行うことが重要である、という指摘があり、このための具体的活動としては、必ずしも長期ビジョンとそれに対する提言という形にはこだわらず、学会で特別セッションを開催していくようなことが考えられる。理事長がその世話を関係者に依頼し、実行していくこととなった。

(3) 次回以降の評議員会日程

今回は秋季年会中、10 月 7 日の昼休みに開催し、次々回は 2006 年 1 月 28 日（土）11:00 より国立天文台（三鷹）で開催することとなった。

2005 年 8 月 4 日

議長 須藤 靖 印
署名人 海部宣男 印
署名人 岡村定矩 印

第 16 期評議員候補者選挙結果報告

任期 2006 年 1 月 1 日～2009 年 12 月 31 日の評議員選挙を、定款及び評議員選挙施行細則に従って、2005 年 6 月 27 日～7 月 20 日を投票期間として行いました。2005 年 7 月 22 日に開票作業を行い、以下の結果を得ましたので報告致します（敬称略）。

送付投票数：1,572（有権者数）
回答数：224
有効投票：1,304
白票：264
評議員候補者（*印は現評議員）
（任期：2006.1.1～2009.12.31）

氏名	得票
当選 海部 宣男*	58
当選 岡村 定矩*	52

当選	永田 健	51	当選	渡部 潤一	18
当選	宮川 雄大	51		芝井 広	16
当選	柴田 一成*	42		杉山 直	16
当選	井上 一*	38		有本 信雄	14
当選	須藤 靖*	38		太田 耕司*	14
	牧島 一夫*	34		国枝 秀世	14
	小山 勝二*	33		長谷川哲夫	14
	福井 康雄*	27			以下略
当選	中川 貴雄	23			
	高原 文郎*	21			
	吉井 讓*	21			
当選	郷田 直輝	18			

2005年7月22日

選挙管理委員会
委員長 富阪幸治

(社)日本天文学会へ2005年3月29日から7月2日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会者 (70名)

鈴木崇弘	京都大・大学院理 (在学)	丹羽佳人	京都大・大学院 (在学)/国立天文台
中里健一郎	早稲田大・大学院理工 (在学)	榎戸輝揚	東京大・大学院理 (在学)
白鷹範子	東京工業大・大学院理工 (在学)	小田 寛	千葉大・大学院 (在学)
松浦大介	大阪大 (在学)	馬見塚 裕	京都大・大学院理 (在学)
広本健二	明星大・理 (在学)	川田明寛	大阪教育大・大学院 (在学)
保田誠司	筑波大・大学院 (在学)	窪田 廉	首都大学東京・大学院理 (在学)
大西高司	名古屋市科学館	中村理央	九州大・大学院 (在学)
安井千香子	東京大・理 (在学)	伊藤裕貴	早稲田大・大学院理工 (在学)
小西功記	東京大・大学院理 (在学)	似鳥啓吾	東京大・大学院理 (在学)
新井敬朗	東京大・大学院理 (在学)/国立天文台	長谷川賢二	筑波大・大学院 (在学)
佐野雄二	佐野税理士事務所	宮内智文	大阪大・大学院理 (在学)
Scot Kleinman	Apache Point Observatory U.S.A.	清水一紘	筑波大・大学院 (在学)
山野井 瞳	総研大 (在学)	近藤莊平	東京大・大学院理・ 天文学教育研究センター
片山真人	国立天文台	萩原健三郎	筑波大・大学院 (在学)
簗島 敬	東京大・大学院理 (在学)	西村信哉	九州大・大学院 (在学)
滝浪淳哉	静岡市在住	岡庭高志	東邦大・大学院 (在学)/国立天文台
東狐義秀	大阪府立大・大学院 (在学)	新田敦子	Apache Point Observatory U.S.A.
桑原健二	早稲田大・大学院・理工 (在学)/ 国立天文台	大宮正士	東海大・大学院理 (在学)
大泉尚太	鹿児島大・大学院理 (在学)	松本尚子	鹿児島大・理 (在学)
山本裕之	鹿児島大・大学院理 (在学)	西谷洋之	北海道大・大学院理 (在学)
辻 企世子	大阪府立大・大学院 (在学)	菊谷温子	神戸大・大学院総合人間科学 (在学)
中道将司	広島大・大学院理 (在学)	松永達郎	富山大・文理学部理学科卒
原 和義	大阪府立大・大学院 (在学)	小嶋崇文	大阪府立大・大学院 (在学)
川道俊見	京都大・大学院理 (在学)	新谷元信	鹿児島大・大学院理 (在学)
松本琢磨	京都大・大学院理 (在学)	対馬美雪	鹿児島大・大学院理 (在学)
田尻愉香	京都大・大学院理 (在学)	水野陽治	名古屋大・大学院理 (在学)
坂井南美	東京大・大学院理 (在学)	原田雄司	東京大・大学院理 (在学)
柳 哲文	大阪市立大・大学院 (在学)	服部 雄	広島大・大学院理 (在学)
西山晋史	大阪教育大・大学院 (在学)	吉岡 努	名古屋大・研究生 (在学)

橋田華絵	東海大・大学院理 (在学)	岸邊紀幸	神戸大・大学院 (在学)
永江 修	広島大・大学院理 (在学)	野田寛大	国立天文台
東樋口正邦	大阪大・大学院理 (在学)	高木 亮	筑波大・計算科学研究センター
秋月千鶴	大阪教育大・大学院 (在学)	山内雅浩	国立天文台・天文機器開発センター
田和憲明	大阪大・大学院理 (在学)	佐藤光浩	東京大・大学院 (在学)
大熊 哲	東京都立大・大学院 (在学)	酒井 剛	国立天文台・野辺山

準会員入会者 (30名)

石堂清雅	(株)和商工	長沢真樹子	国立天文台
廣瀬 匠	東京大・大学院総合文化 (在学)	伊藤純也	北海道大・大学院理 (在学)
三浦直也	東京大・大学院 (在学)	神谷浩紀	名古屋大・大学院理 (在学)
田中秀和	北海道大・低温科学研究所	笹岡重樹	東京理科大・大学院 (在学)
池田真行	東京理科大・大学院 (在学)	薙野 綾	東京理科大・大学院 (在学)
安藤倫哉	ユアサアイオニクス(株)	橋本末緒	加古川市立少年自然の家
宮本将雄	東京理科大・大学院 (在学)	平澤 歩	広島大・大学院理 (在学)
山本和英	広島大・大学院理 (在学)	浅野哲也	広島大・大学院理 (在学)
千代延真吾	広島大・大学院理 (在学)	内山秀樹	京都大・大学院理 (在学)
江川千尋	広島大・大学院 (在学)	田中康之	東京大・大学院理 (在学)
安田 創	広島大・大学院理 (在学)	馬場大介	名古屋大・大学院 (在学)
奥村哲平	名古屋大・大学院理 (在学)	小澤 碧	京都大・大学院 (在学)
山田真澄	国立天文台	木内 等	国立天文台
井内麻友美	葛飾区郷土と天文の博物館	河本卓也	広島大・大学院 (在学)
Baltasar Vila Vilaro	国立天文台	澤本直之	広島大・大学院 (在学)

賛助会員入会者 (1社)

カズキプリント(株)

移籍会員

[準→正] (1名)

藤原英明 東大・大学院理 (在学)

[正→準] (2名)

小野健一, 松林達史

正会員退会者 (5名)

大島綾子, 古谷賢一, 鬼形 愛, 狐塚正樹, 沖田容史子

準会員退会者 (6名)

畑田一幸, 松下明広, 寺沢真弓, 夫 才修, 西泉邦彦, 米田信三

和田桂一(編集長), 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田 智, 矢野太平
 平成17年8月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2005年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)